



信太の森ニュース

No. 41
2022年5月31日

文責 田丸八郎



惣ヶ池湿地も春爛漫、ヤマツツジ、カマツカに続いてモチツツジが咲きだします

今年の冬は例年になく厳しい寒さが続きました。それが原因なのかどうかは分かりませんが、惣ヶ池湿地のニホンアカガエルの産卵が遅くなりました。しかし産卵数が例年よりかなり少なく、アライグマが荒らした形跡もあり池の中に網囲いを作り、そこに卵塊を入れてアライグマからの被害を防ぎました。

里山自然公園を貫通する信太5号線を横断して産卵にやってくるカエルにとって現在行われている道路拡幅工事が原因とも考えられますが、推測の域をでません。小動物の横断管理設工事も行われており、来年の産卵時期を待つしかありません。

保護した卵はオタマジャクシになり、網囲いも外して元気に泳ぎ回っています。

厳しい寒さはウグイスの初音にも影響しました。例年2月下旬に「ホーホケキョ」と囀りはじめますが、今年は3月上旬にずれ込み信太山では記録的な遅い初音でした。

厳しい寒さが続いたかと思えば3月後半から急に暖かくなり、桜の開花が例年より早くなりました。その影響は、惣ヶ池湿地を彩るヤマツツジやモチツツジにも影響したようです。

例年5月の連休前から連休にかけてヤマツツジが咲き、それと入れ替わりにモチツツジが惣ヶ池湿地を彩ります。今年はその寒暖が影響したのか、今シーズンの惣ヶ池湿地のツツジは例年に比べて、もう一つといった感じでした。こうした気温の変化は野鳥の世界にも影響がありました。

NPO法人 信太の森FANクラブ
事務局：〒594-0013 大阪府和泉市鶴山台3丁目4番1-202
電話 0725-45-7357 090-1225-9159
E-mail tamahati@amber.plala.or.jp

公園協議会の動きと活動

3月22日、公園協議会の企画運営会議が開催されました。会議では、報告事項として惣ヶ池湿地の位置づけについて、公園と一体的に利用しながら湿地の保全もできないかと会長より意見が出されました。その問題に関連して湿地所有者の現状、公園と湿地の間に国有地があり、一体的に保全と活用ができるように国にも働きかけて欲しいこと、湿地も含めた公園として検討されるよう意見を述べました（詳細後記）。

その他、小学校、地域住民へ公園利用の働きかけをしたこと、東エリア内で大阪公立大（元府大）研究生による「ヤギによるネザサの成長抑制について」研究のため4月より一定の囲いを作って飼育することなどが報告されました。

協議事項では、活動拠点施設（管理棟）について、テラスの筋違柱を減らし、もう少し広く開放的なテラスにならないか、小学生が課外授業などで利用する場合、特に女子トイレの穴数が足りないのではないかなどの意見がだされましたが、筋違柱は減らすよう現在検討中、女子トイレは想定される利用者数から算定し根拠のある穴数となっていることが報告され、その他、拠点施設の監視カメラ、防犯灯、駐車場のガーデンライトの他東エリアのトイレ棟、東エリア小湿地の保全について報告がありました。

池の土揚げにスノーボードが活躍

惣ヶ池湿地には水が溜まらない池も含めて湿地の北（下流）から南（上流）へ湿地整備以前からあるスイレン池、整備時に作られた中池、大池、空池（いづれも便宜上筆者が名付けたもの）の4つの池があります。

雨が少なかったこの冬、中池、大池には十分水があるにも拘わらず下流のスイレン池が干上がりはじめました。



過去に2、3度夏の干ばつ時に池が干上がることはありましたが、今回はそれとは違い土砂が堆積して水面が無くなったのです。

池の中で土を運ぶには足をとられて運び難く、どうやって除去しようかと思案していたとき、会員の谷口さんから不要になった「スノーボード要りませんか」と言われて戴くことに。スノーボードではありません。雪上で子供を乗せて滑るプラスチック製のボードです。

ボードの前後に長いロープを付け、それに泥を入れるバケツを二つ乗せ、陸地側からも池内からもボードを引張れるようにして、それを往復させながら池内の泥を運び出します。

これまで2回、活動日に実施しましたが、スノーボードのお蔭で作業がはかどりました。まだ4割程度ですが、暑くなる前に完了したいと考えています。



ボードに泥が入ったバケツ2つを乗せて

里山自然公園と惣ヶ池湿地の今後

信太の森FANクラブが惣ヶ池湿地と関わり始めたのは2012年9月12日の保全活動からで、NPO法人になったばかりのときでした。

信太山里山自然公園に係るワークショップ

ブ検討委員会が始まったものの公園協議会の設置もまだ決まっておらず公園予定地の保全活動がいつ始まるのか分からない時期でした。前年に住友ゴムCSR基金の助成を受けて保全作業用具を揃えたものの時間が過ぎていくばかりでした。

里山自然公園予定地に近接する惣ヶ池湿地を管理している財)大阪みどりのトラスト協会に働きかけて惣ヶ池湿地の保全活動を共同ではじめたのがこの時期でした。

トラスト協会に働きかけて惣ヶ池湿地に作業道具を保管する格納庫を設置して貰い、そこを活動拠点にしているため、現在では、惣ヶ池湿地の保全活動が本来活動と思っておられる会員もあるかと思えます。

私たちの本来活動は、里山自然公園をつくることにありますが、信太山丘陵の自然を守るためには、絶滅危惧種が多く棲息する大阪府最大の湿地である惣ヶ池湿地も保全すべき重要な湿地として保全活動を行っています。

しかし、惣ヶ池湿地は、和泉、泉大津、高石3市の共有地となっており、現時点では和泉市固有のものではありません。更に里山自然公園予定地と惣ヶ池湿地の間には約20m巾の国有地があり、更に難しい問題が残っています。

里山自然公園と惣ヶ池湿地の関係をどうするのか、私たちの活動はどうあるべきかを議論し、みんなで共有しながら進めて行くことが今重要ではないかと考えています。



今シーズンの鳥事情

今年は厳しい寒さが続き2月下旬には美しい声を聴かせてくれウグイスの初音が遅れて3月上旬になりました。信太山に渡って来る鳥たちにも少し変化があり、昨年に比べて種数が減少しています。

昨春の渡り鳥はセンダイムシクイ、オオルリ、キビタキ、サンコウチョウ、コマドリ、コサメビタキ、ホトトギスといった鳥がやってきて楽しませてくれましたが、今年はセンダイムシクイ、キビタキ、サンコウチョウと少なく、毎年来ていたホトトギスも今シーズンはまだ来ていません。

そんな状況の中でトピックスがありました。5月の観察会の最後の纏めを日差しを避けて森の中でやっているところにサンコウチョウの鳴声。観察会の纏めを放り出してその小鳥の観察に。鳴き声ばかりか姿も現してくれました。信太山ではその姿を初めて確認し、その姿の撮影にも成功しました。



サンコウチョウのメス(左)とオス(右)

観察・撮影できたのはメスだけでした。オスは尾羽の長い美しい小鳥で、野鳥ファンの憧れの小鳥です。7年前に和泉の山麓で運よく撮影することが出来のが右上の写真です。

さて、今シーズンホトトギスはやって来るのか。信太山にホトトギスがやって来るのは托卵相手のウグイスが多いからです。和歌にも「・・信太の森のホトトギス」と十数首に詠われてきたホトトギスですが、果たしてホトトギスはやって来るのか。信太山にホトトギスが来なくなるのは寂しい限りです。

公園東エリアの草原でヤギ飼育

4月11日から里山自然公園予定地東エリアの中央草原でヤギ2頭の飼育が始まりました。草原と言っても殆どがネザサにおおわれているところで「ヤギによるネザサの成長抑制について実験を行っています」という看板が掛けられています。

これは、公園協議会メンバーの大阪公立大学（元大阪府大）大学院の藤原先生の研究生が研究テーマとして実験しているものです。

囲いの中に生えているネザサだけでは足りないので専用の餌が与えられています。研究生（留学生）が給餌などで現地に来られないなど事情があるときにFANクラブがそのお手伝いをするにしています。



4月22日、夕食を食べているところに藤原先生より「ヤギが逃げ出したようで、警察から連絡が入ったが遠いところに居て現地に行けないので田丸さんの方で対応していただけないでしょうか」との電話。夕食もそこに警察へ電話をしてヤギの保護先を聞き、FANクラブ会員の岩川さん、山口さんに電話をして山口さんの友人も含め4人で蔭涼寺へ向かいました。

蔭涼寺の近くのお食事処「Madamu英華」のご主人が捕獲してくれたようで、ヤギは庭にロープで繋がれていました。ヤギを受取り、6人の警察官と我々4人で飼育ゲージまで連れて行き無事回収が完了しました。

しかし、そのヤギはまたもや脱走。大学側

では飼育するヤギ（ワールド牧場から借りたもの）を別のヤギに替えて飼育を継続することになりました。ヤギ飼育の実験は7月頃まで行われる予定です。

今年も野草の天ぷらを楽しみました

5月8日公園協議会の活動日は、鶴山台の自治会に働きかけ「ツツジの観察会」が実施され、これには約40名近い参加者がありました。

当日は、大阪公立大の研究生（駆除対象の外来種を食べる研究）が外来種のセイタカアワダチソウとアメリカオニアザミを採取して天ぷらにするということで、参加者全員でセイタカアワダチソウの抜取作業を10分程行いました。その後モチツツジが咲く「ツツジの丘」を案内。ツツジの丘に来たことがある人は少なかったようで、満開のツツジに感激していました。

観察会終了後解散となり、既に出来上がったセイタカアワダチソウとアメリカオニアザミの天ぷらを自己責任で賞味して帰った人も。



当日は、FANクラブでも午後から惣ヶ池湿地の広場で野草天ぷらを賞味することに。

ミツバ、セリ、カラスノエンドウ、ヒメジオンは前日に信太山で調達し、信太山には無いコシアブラとユキノシタを20名分準備。美味しいコシアブラは誰が食べたのか全員に行き渡らず、ユキノシタが意外と好評でした。来年をお楽しみに。